

石蓆梁山泊

～つわぶきの野で夢を叶える～

島根県立津和野高等学校

女子バレーボール部

島根県鹿足郡津和野町後田ハ 12-3

TEL (0856) 72-0106

FAX (0856) 72-0329



令和4年5月号 (VOL.74)

I・令和4年度島根県高等学校総合体育大会！ 初のベスト8進出！

令和4年5月26日(木)から3日間の日程で松江市鹿島総合体育館を会場に令和4年度島根県高等学校総合体育大会(県総体)バレーボール競技が開催されました。島根県内の多くの3年生が進路実現に集中するために、この県総体で引退します。3年生にとっては日頃の練習の集大成となる大会です。それ故に、この県総体に臨む各チームの選手・スタッフの意気込みはすさまじく、とてつもない緊張感に包まれた大会となります。新型コロナウイルス感染症も未だ終息する傾向にはありませんでしたが、感染防止対策を徹底しての実施となりました。3年生のほとんどが最後の大会になるということを考慮し、公共の体育館が会場であることもあり、観戦者の入場も可能となりました。久々に、会場には多くの人が集まり、熱気に包まれた大会となりました。

そして本校も選手、スタッフ、保護者の皆さんと一丸となって臨みました。結果は、目標としていた“優勝”にはとどきませんでした。県総体では、**初のベスト8**という好成績を収めることが出来ました。3年生4人が柱となり、また新たな歴史を刻んでくれました。

【試合結果】 *試合結果詳細裏面

2回戦	○ 津和野	2 { 25-15 25-19 }	0 益田翔陽 ●
3回戦	○ 津和野	2 { 25-20 25-22 }	0 浜田 ●
準々決勝	● 津和野	0 { 14-25 13-25 }	2 大社 ○



【大会を振り返って】



初戦の益田翔陽高校戦では、両チームとも硬さが見え、津和野もミスを連発。いつものことながら経験値の低さや日常の緊張感の不足をあらためて感じた。しかし、3年生の牽引で得点を重ね、勝利することが出来た。中学時代から交流のあった翔陽高校の選手たちと最後に真剣勝負が出来たことが貴重な思い出となった。今まで翔陽高校とは何度も練習ゲームを重ねてきただけに、翔陽高校の3年生には、今後益々飛躍して欲しい。3回戦は、浜田高校との対戦。浜田高校はシード権を持つチーム。つまり、この試合に勝利すれば、シード権を獲得することになるというプレッシャーがあった。しかし、津和野は前日の翔陽高校戦の反省を活かし、冷静に試合に臨むことが出来た。さらに4月の中国予選以降、選手自ら提案し取り組んできたブロックも大きな効果を発揮する。フロントの選手のブロックに対する意識、サイドスパイカーのコースをねらったスパイク、積極的な2段攻撃とそれぞれの課題や挑戦が活かされたゲームとなった。この試合に勝利して、ベスト8以上が決定。津和野高校として初の準々決勝へ進出。そして次の対戦相手は、中国予選で苦戦した大社。今度こそリベンジをと意気込んで試合に臨む。しかし、第2シード・大社の壁は厚かった。それまで機能していたブロック&レシーブも大社の速い攻撃に、全くついていけない。サーブも慎重になりすぎて大社の思うつぼ。更には、サイドスパイカーも“決めなければ”というプレッシャーと焦りに、ボールが手に当たらない。全く得点できない状況で我慢する場面ばかり。試合時間40分という大敗を喫した。しかし、選手の目に涙はない。「次こそは！」と言わんばかりに悔しさをエネルギーに変えようとしている目だった。津和野の選手は強くなった、本当に強くなった。監督としてそう強く感じた。ベスト8という新たな歴史の1ページを開いたが、このままでは終わらない。津和野の挑戦は、まだまだ続く。絶対に負けない！

～ 県総体を終えて ～ 3年生からのメッセージ①

橋本 はるな (浜田市立第三中学校出身・ウイングスパイカー)

入学してから、3年生で迎える県総体までの2年2ヶ月は、長かったようであつという間に過ぎてきました。今回の県総体ではチームがバタバタしている状況の中で、3年生である私が点数を取って、みんなを安心させないといけませんでしたが、私も慌ててしまい、3年としてまだまだだと思いました。私は日々の練習を通じて、信頼される人になるのはとても難しいということが分かりました。信頼される人になるためには、人よりも何倍も努力をしなければなりません。時間をかけて気付いてきた信頼も、一度逃げると一瞬にして失います。私は何もかもが嫌になって部活動から逃げ出したことがあります。たくさんの人に迷惑をかけてしまいました。しかし、そんな時でも、両親は私の意思を尊重してくれました。

日頃から、励ましたり、叱ったりしてくださった指導者の方々や沢山声をかけてくれたチームメイト、多くの人々の支えがなかったら、今の自分はないと思います。これまで、支えてもらった分、試合で活躍している姿を見せられるように、もう一度、私は春高に挑戦します。そして、津和野高校の目標である島根県チャンピオンになります。

もっと強くなって、みんなから信頼される選手、チームの絶対的エースになります。

コロナ禍で、総体も開催されるかわからない状況で、予定通りに開催できたこと、毎日練習できることは当たり前ではなく、関係者のみなさん、指導者や保護者の方々の支えがあったからこそです。このことを忘れず、感謝の気持ちを持って過ごしていきます。そしてチャレンジ精神を持ち、一分一秒を無駄にせず、日々の練習に取り組んでいきます。これからも津和野高校女子バレーボール部の応援をよろしくをお願いします。



森口 実央莉 (大阪府和泉市立北池田中学校出身・マネージャー)

2年間の集大成である前期総体を終え、ベスト 8 という悔しい結果となりました。私は1年生の10月からマネージャーとしてチームを支える立場になりました。一人で活動していくようになってから特に不満を抱えて辛い思いをすることが多くなりました。3年生のリーダーシップ性の無さからチームがまとまらず後輩たちに不満や不安を抱えさせてしまったこともありました。実際、私自身は指示待ち人間でした。私は、裏で黙々と仕事をこなすのがマネージャーで、チームをまとめたり変えることができるのは選手にしかできないことだと思っていました。ですが、それは勝手な決めつけや、自分自身に対する甘えでした。他人任せにすることが多かった私ですが、それに気づいてからは物事を円滑に進めることができるように先を読み、指示や行動することが少しずつできるようになっていきました。ですが、まだまだ足りないことばかりで迷惑をかけてしまうことも少なくはありません。私はマネージャーという、選手とはまた違う視点で物事を見ることのできる特別な立場で約1年半務めさせていただきましたが、このマネージャーを通して保護者の方々と接する機会が増え、本当に保護者の方々がチームをサポートしてくださっている場面を目の当たりにしました。合宿の前など打合わせや、夕食作り、試合の応援、昼食の準備、行き帰りの運転など、書き表すことのできないほどのたくさんの方にサポートをしていただきました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。この約2年間で人間として成長したと私自身が感じることも多くあります。この先もっと成長していきます。県総体で一応区切りとはなりますが、これからも津和野高校バレー部の一員として、しっかりチームをサポートしていきます。



“ツコウ”の今をお届けします！

様々な情報発信を心がけています。

ぜひホームページを訪れてみてください。

学校生活や寮生活、部活動に関するニュース満載！

<http://tsuwano.ed.jp/>



令和4年度 島根県高等学校総合体育大会 バレーボール競技【女子の部】



